

(別紙)

「京の文化力・次世代育成プラン」に係るパブリックコメントの要旨  
及びこれに対する府の考え方等

項目	意見の要旨	府の考え方
「国民文化祭により育まれた文化活動の継承・発展について	○国民文化祭で古典に関わる発表ができたことを、関係した生徒達は誇りに感じていた。これは京都の伝統文化に根ざしたものであったからこそできた精神的成長。高校生でも、伝統や歴史・文化という重いものを背負う気概と覚悟を持つ。高校では、国文祭の成果を踏まえて、披講や和歌の作歌活動を継続していく組織づくりを進めている。国文祭後の高校生への活動支援と、全国への京都の小・中・高校生による文化発信こそ急務である。	□ご意見のとおりであり、仕事・文化体験活動推進事業、次世代文化継承発展事業、次世代文化活動パワーアップ事業等、本プランに掲載の各事業を通じて、国民文化祭により育まれた文化活動の継承・発展、全国への文化発信に取り組んでいきたいと考えています。
「ほんまもん」の京都文化の体験・継承について	○京都は歴史も古く、日本らしいものとたくさん触れ合える町である。京都文化を学ぶことにより、外国人は日本人と心の通った交流ができるようになる。	□本プランは次世代への京都文化の継承を目指したのですが、ご意見の通り、京都文化の体験は、外国の方にとってもここを大切にす日本文化の理解や交流促進に役立つと考えています。
	○「京都文化の体験」の諸事業に講師等として関与する芸術家が、経済的にも十分な支援を受けられるような措置を希望する。	□体験事業の実施に当たっては、指導者となる芸術家の皆さんに過度な負担がかからないよう連携・支援を図りながら事業を進めます。
	○文化力育成には何より、次世代を担う子ども達がいかに文化活動に興味を持つかが最重要課題。文化活動の場を提供しても興味を引かなければ文化力は育たない。文化活動の継承、発展のためには、様々な文化活動を知る機会を与えるとともに、興味をひきだすための方法を考案することが課題である。	□ご意見のとおりであり、体験事業の実施に当たっては、次世代の興味を引き出すように事業内容の創意工夫を図りながら事業を進めます。

	<p>○こども達が「ほんまもん」に接する機会が少ない。さらに府域による差もある。最も身近に「ほんまもん」に触れられる場所が博物館であり、とっかかりの一つとして考えられるのは学校単位での博物館の来館。海外では学校単位での来館は頻繁で、こども達も小さい頃から博物館に親しんでいる。日本においてもこうした機会を増やしていく必要がある。そのためには、こども達にとってよいプログラムが必要だが、教師と学芸員の協業で、こども達に興味を抱かせるプログラムが多数作られることを期待する。</p>	<p>□ご意見のとおりであり、京都文化博物館と連携し、こども達を対象としたプログラムを開発・実施したいと考えています。</p>
<p>文化活動の担い手づくりについて</p>	<p>○「京都文化の体験」の諸事業に参加して体験したこども達が、自主的に出演（参加）するレベルにステップアップしていく手立てあるいはそれを支援していく施策が中間案では不足している。体験どまりでは、伝統的な文化の「継承」とはいえず、大衆的な人気に欠ける伝統芸能の場合は、「絶滅の危機」から逃れられないのではないかと懸念する。体験したこども達が、活動する人々に育っていくプロセスを支援する施策を希望する。</p>	<p>□ご意見のとおりであり、体験事業の実施に当たっては、次世代の自発的な取組に繋がるように事業内容の創意工夫を図りながら事業を進めます。</p>
<p>大学との連携について</p>	<p>○中間案は、「京都」独特の文化にあまり関わりのない地域の府民には面白みがない。</p> <p>次世代育成に大学を活用する案には賛同できる。特に、芸術系大学の学生に、京都府全域に出向いてもらうなどして、様々な芸術・アートを知る機会の地域差を解消する一役を担ってもらおうと良い。</p>	<p>□ご意見のとおり、京都市内と京都府域の文化には違いがありますが、大学生等を活用し交流することにより、双方の文化を広げることが重要であると考えています。</p>

<p>京都文化の発信について</p>	<p>○文化を次世代に継続するには京都から世界にアピールすることが大事。京都の代表的な文化である西陣織も、こんなによい文化があると世界にアピールすることにより日本や世界から織りたいという人があられ、職人数が増えて次世代に繋がっていくことができる。</p>	<p>□ご意見のとおりであり、次世代育成を通じた文化活動、次世代がつくる新たな文化を国内外に発信します。</p>
<p>アートマネジメントの配置について</p>	<p>○府内の公立文化施設の更新・整備が急務。府民ホール建設後 20 年以上経過。その後新しい機能を備えた施設が設置されていない。 施設には学芸員と同質の専門知識とネットワークを有し、芸術家と次世代を結びつける事業を具体的に運営していくことができるアートマネジメントの配置が必要である。</p>	<p>□公立文化施設等へ「こども文化ステーション」を設置し、芸術家と次世代を結びつける事業等の実施を通じて、アートマネジメントに係る機能の強化を図りたいと考えています。</p>